

2022 年度特定非営利活動法人子ども & まちネット事業報告

1. 概要

<この一年>

2022 年、コロナ禍と言われはじめて 3 年目となるこの年も、新型コロナウイルスの影響を受けながらの社会活動を行う一年でした。ウイルスが次々に変異し、「オミクロン株」「BA・5」などと聞いたことのない名前が日常会話の中でもスタンダードに登場する日々。患者数が一時は全国で一日 10 万人を超える猛威をふるっていましたが、徐々に収束に向かい、2023 年に入って様々な規制が緩和されてきました。そんな中、年度末の 3 月には、WBC (World Baseball Classic) において、侍戦士たちが活躍して世界一になるという明るい話題が、この静まり返った日本に元気を与えてくれ、社会現象ともなりました。また愛知県出身の藤井聡太棋士が、将棋界のタイトルの最年少記録を次々に塗り替える快挙を成し遂げ（現在 7 冠）、将棋に関心を持つ子どもたちにも、大きな夢と希望を与え続けています。

2023 年 4 月。いよいよ子ども家庭庁が発足し、子ども基本法が施行されました。「こどもまんなか」のスローガンにかかげ、「こども家庭庁は、こどもがまんなかの社会を実現するために、こどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとっていちばんの利益を考え、こどもと家庭の、福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利けんりを守まもるためのこども政策に強力なリーダーシップをもって取り組みます」（子ども家庭庁 Web サイト）と宣言されています。子ども・子育て施策も大きく前進することが期待されています。

子ども & まちネットの 2022 年度事業活動も、様々な場面で新型コロナウイルスの影響を受けながらも、徐々に規制を緩和してきました。ワンストップひろばでは、定員を段階的に増やし、秋まつりやフリーマーケットなど人が集まる行事も少しずつ開催するようになりました。

<主たる事業（事業詳細は次章で）>

「STEP プロジェクト事業」は、助成金獲得が叶わず自主開催で研修を行いました。昨年に引き続き、保護者・支援者向け研修をオンラインで開催しました。

<名古屋市青少年交流プラザ（ユースクエア）・青少年宿泊センター指定管理>

ユースクエア（本館）は、引き続き基本方針の三層支援プログラムに則って事業活動を行いました。閉館機関中（2021 年度内）に計画した様々な試みを、若者支援事業や講座などで具現化しましたが、2023 年（令和 5 年度）以降の指定管理者選定から外れることとなり、9 年間に渡って行ってきた子ども & まちネットを含めたコンソーシアムでの管理運営が、3 月 31 日で終了しました。職員 2 名、非常勤職員 1 名が事業運営を担当しました。

<会員の状況>

正会員	個人：35 人、団体：2 団体	（昨年度個人：32 人、学生：5 人、団体：2 団体）
情報会員	個人：5 人、団体：0 団体	（昨年度個人：5 人、団体：0 団体）
賛助会員	個人：9 人、団体：2 団体	（昨年度個人：7 人、団体：2 団体）
合計	49 人と 4 団体	（昨年度 49 人と 4 団体）

2.事業の実施に関する事項

[1]「こどもにやさしいまちづくり」のための手法開発と普及、支援政策提言

事業名	名古屋市青少年交流プラザ（本館）、名古屋市青少年宿泊センター（分館）指定管理
主催	名古屋市子ども青少年局
事業目的	青少年交流プラザ（ユースクエア）における、主に若者の地域参画や自立に向けた体験活動などについて事業を企画し運営する。
実施期間	2022年4月～2023年3月
スタッフ	白川陽一・小島紫（常勤職員）、水野真由美（理事／非常勤職員）
事業内容	<p>・ 公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会、特定非営利活動法人 ICDS との三者のコンソーシアムで運営管理。</p> <p>以下は 2022 年度の事業のうち、子まちが担当したもの。</p> <p>※ユースクエアでは、若者の支援プログラムを三段階にとらえ、まず「人とつながり」、次に「地域社会につながり」、最後には「その地域社会に貢献できるような若者を育成する」という段階を踏んだ支援事業を企画している。</p> <p>一層目：【人につながる支援】</p> <p>知的創造活動の促進方法であるファシリテーションについて、様々な講師・アプローチからファシリテーターとしての在り方を学ぶことで、社会に生きる「私」としての自立心を育むビーイング・ファシリテーター入門講座では、ファシリテーションに関するスキルとグラフィックレコーディングの技術について、各回完結型で開催する学びの講座を実施した。</p> <p>●開催日：6月18日（土）・19日（日）</p> <p>●参加人数：のべ40人</p> <p>青少年が好きなことを通して自由に繋がれる枠組みとして今年度より始動したユースクエア部活動推進事業。子まちは2つの部活を担当した。1つ目はフェス部。月に1度の定例会やフェス前の技術講習会を行い、プラザで二回、アートピアホールで一回、計三回のフェスを計画して開催した。アニメ部は8年続いたグループ。今年度は司会がテーマを準備して、それに沿ってアニメについて色々話をするスタイルで開催した。</p> <p><フェス部></p> <p>●開催日：通年（17回開催）</p> <p>●参加人数：のべ163人</p> <p><アニメ部></p> <p>●参加日：通年（11回開催）</p>

●参加人数：のべ53人

二層目：【地域・まちにつながる支援】

子どもに関わる職業やボランティアの人に、子どもの遊びとそれを介した関わり方について知ってもらうことを目的とする『プレイワーカー入門講座』を開催。1日目はプレイワーカーを講師に迎え、子どもの遊びの大切さや意義、社会の中での遊びの現状などについて教えてもらった後、体験型ワークショップ形式で学びを深めた。2日目は名城公園でプレーパークを開催。実際に子どもたちと遊ぶ体験を行った。

●開催日：

第1回プレイワーカー入門講座…10月15日（土）

第2回プレーパーク実習（at. 名城公園）…10月16日（日）

●参加人数：第1回 5人 ・ 第2回35人（子ども含む）

ユースクエアに登録している青少年育成サポーター（ユースボランティア）の活動として、コロナ禍で開催が見送られてきた地域のイベント行事が昨年にも増して復活してきたことがあり、10件弱のボランティアマッチングを行った。

その他の青少年育成サポーター（ユースボランティア）の活動として、スキルアップのための講座、『音響・照明の操作を学ぼう』を開催、その後アートピアホールで開催するイベントやプラザで開催するフェスの裏方として活躍する機会も提供、実際に参加してもらった。

●開催日：7月23日（土）・8月3日（水）・1月6日（金）

●参加人数：のべ46人

音響照明講習会を受講した若者、前年度から活躍している若者たちが裏方として参加して、『Youth Summer Fes』『クリスマスパーティー』『Nagoya MUSIC FES』を開催。高校・大学のダンス部やバンドが多数参加した。

●開催日：8月9日（火）・12月11日（日）・2月5日（日）

●参加人数：のべ1294名の参加

高校生ミュージシャンのためにフェス部が企画運営する音楽フェス、『Hopeful Fes』の第4弾を開催。フェス部として1年間活動してきたスタッフに加え、新しいメンバーやたくさんのOBスタッフにも手伝ってもらって開催した。同年代である主催者、参加者同志の繋がりが生まれ、今後につながる取り組みになった。

●開催日（準備、リハーサル含む）：

本番：3月24日（金） リハ：3月23日（木）

●参加人数：のべ154人

プラザ企画委員会では、施設内でのイベント企画・運営を中心に、高校生から社会

人までがチーム活動を展開した。イベントは、夏は「ユースクエアまるはち夏まつり」、秋は「ユースクエア文化祭」、そして年度末は「ユースクエアまるごとフェスティバル」を開催した。特筆すべきは「まるごとフェスティバル」で、これまで施設・事業に関わった全年代を対象に「感謝祭」を行い、現指定管理者が実施する締めくくりの事業としてふさわしい全館イベントとなった。

【ユースクエアまるはち夏まつり】

- 開催日：8月7日(日)
- 参加人数：238名参加

【ユースクエア文化祭】

- 開催日：11月20日(日)
- 参加人数：125名参加

【ユースクエアまるごとフェスティバル】

- 開催日：3月5日(日)
- 参加人数：172名参加

三層目：【地域・まちに働きかける支援】

「サステナまち計画 2023」は、今年度から新たに実行委員会構成団体として加わった名古屋造形大学をはじめ、愛知学院大学・名古屋市北区役所等と協働し、広く「持続可能な地域」を見据え、主として名古屋市北区の地域課題について理解を深めながら、地元産官学の主体と若者(中学生・高校生・大学生)が協力・協働をする事業を実施した。今回は「歩いて発見！北区の魅力」と題し、変化し続けるまち：名古屋市北区の今を参加者の目線で捉えるまち歩きを実施し、そのアウトプットとしてマップ作りをした。

※2023年度連携先

愛知学院大学、名古屋造形大学
北区役所(地域力推進室)、北区民まちづくり推進協議会
愛知中小企業家同友会、北星会

- 実施期間 2022年11月5日(土)
- 参加者(中高大学生+その他の世代) 38名

自主活動推進事業としては、「教科書からの脱出～消えた教科書を探し出せ!～」の開催サポートをした。いわゆる「脱出ゲーム」といわれる謎解きイベントのパッケージを参考にしながら、若者ならではの発想をプラスした子ども向けイベントの実施をサポートした。

- 開催日：1月15日(日)
- 参加人数：のべ43名

また、長期にわたってプラザのヘビーユーザーである3人兄弟が開催した「あそび

	<p>のひろば」のサポートを行った。オープンスペースで、3人がそれぞれ小中学生対象のゲームコーナーを企画、友達や知り合いに手伝ってもらいながら運営した。併設のカフェで交流をしながらのアットホームなイベントになった。</p> <p>●開催日：3月19日（日）</p> <p>●参加人数：30名</p> <p>さらに、もう1つの自主活動推進事業として、サステナまち計画2023の事業から派生した「サステナマップ展示会」を名古屋造形大学で実施した。サステナまち計画2023で参加者が制作したマップの内容を、そこに参加したメンバーも巻き込みながらさらに掘り下げ、マップを作品化し、それを造形大学のギャラリーで展示した。</p> <p>●開催日：2月24日（金）・25日（土）・26日（日）</p> <p>●参加人数：のべ39名</p> <p>上記以外の事業として、「ユースカンファレンス」を行った。若者が本館・分館の運営に参画していくことを意図している。両館の利用経験の有無にかかわらず、若者に集ってもらい「プラザは何を大切に作る施設であってほしいか」について探求する活動をした。</p> <p>●開催日：1月29日（日） 会場：ユースクエア</p> <p>●参加人数：37名</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、各種感染症対策を講じたり、参加者の定員を減らしたり、参加者の状態によってはオンライン参加を許容するなど柔軟な事業実施体制を敷き、変化に対応した事業運営をすることができた。 ・施設内の若者がつながり、彼らの人間関係に成熟がみられる場面が増えている。施設やスタッフへ愛着を持つ者が多くなったり、ユースセンターやユースワークに対して興味を高める者がいたり、ユースワーカー（プラザで働くスタッフ）への憧れを抱く者も現れている。何より若者たち自身の自治意識が育ってきている。特に今年度は、現行体制で施設運営する最後の年になったということも影響し、これまで若者たち自身が築いてきた「自分たちの居場所」を守るため、新しい指定管理者（運営者）、そして名古屋市に対し、自分たちの居場所をこれからも守っていくため今後ますます「意見表明」をしていく必要性を感じている若者も多い。このように自分たちの権利を自覚し、民主的価値を重んじた人間育成・意識変容が図られている点は大きな成果である。 ・「ユースカンファレンス」では、「プラザは何を大切に作る施設であってほしいか」をテーマに探求活動をワークショップ形式で実施した。得られた成果は名古屋市を通して新しい指定管理者に伝えられた他、2月に開催されたユースワーカー協議会主催の事業「ユースワーカーフォーラム」で参加者に報告された。 ・「ユースクエア部活動推進事業」は子まち担当のフェス部アニメ部以外にもボードゲーム部、マージャン部、ギター部、読書部などを開催。自分の趣味や興味を通して

	<p>仲間づくりをするための仕組みとして機能した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「プレイワーカー入門講座」では、コロナ禍で実現できなかった、名城公園でプレイパークを開催するという取り組みを実施することができた。遊びの大切さについての講義を受けた上で子どもたちと触れ合った参加者たちは、遊ぶことが子どもたちの心身の成長発達に大きな影響を及ぼすことに関して、実感を伴った理解を得ることができた。 ・「Nagoya MUSIC FES」「Hopeful Fes」は、フェス部だけでなく、OB、その他のボランティア、文化小劇場、その他劇場関係者など、多くの人たちの協力を得て開催することができた。「Nagoya MUSIC FES」は関係者含め1000人以上の参加がある大きなイベントになり、運営した若者たちには大きな自信になった。 ・「サステナまち計画 2023」は、今年度から新しく地域の一員となった名古屋造形大学に実行委員会へ加入するようにアプローチを促し、彼らが（彼らも）主役となる事業となるよう、内容を工夫した。まち歩きで作成した地図を、誰が見ても同じように解釈できる「客観的な地図」ではなく、まちを歩いた人の見方が反映される「主観的な地図」と位置付け、それをアート作品として展示会を行うことで、「魅力的なスポットを増やす」ことに偏重した昨今のまちづくりの傾向に問いを投げかける実践活動を展開することができた。
課題	<p>2023年3月31日をもって、指定管理者から退くこととなり、青少年交流プラザ（ユースクア）事業としては、各事業の継続や、残された課題に取り組むことはできなくなった。この9年間で培った経験とスキル、他団体との繋がりなどで蓄積したりソースを、別の形で子ども若者に還元することが、子まちとしての今後の課題として残った。</p>

その他 各種委員会出席等

- 委員： 名古屋市地域公共交通協議会委員（横井理事）
大府市青少年問題協議会委員（水野理事長）

[2]子ども・子育て・まちづくりに関する情報収集と発信事業

事業名	こまち通信、会員 ML（メーリングリスト）運営、サイト運営、Facebook 等 SNS 運営
自主事業	
事業目的	子まち会員内外への情報提供。会員相互の交流も兼ねる。
実施期間	サイト管理（外部委託）、Facebook 等 SNS 管理： 通年 「こまち通信」40号：2022年7月、41号：11月、42号：2023年4月
担当	こまち通信：原稿作成…各事業担当、デザイン・レイアウト（外部委託） 会員 ML：水野真由美（理事長）、西村健（理事）、牛田真登（学生会員） 公式 Web サイト：運営管理…水野真由美、更新・メンテナンス（外部委託）

	Facebook 等 SNS 管理:西村健 (理事)、水野真由美 (理事長) ワンストップひろば専用 Instagram 水野真由美 (理事長) 戸谷令子 (会員)、ワンストップひろば専用公式 LINE 水野真由美 (理事長)、牛田真登 (学生会員)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●こまち通信・ML とも事業の告知・報告をはじめ、会員内外に知らせたい内容などを掲載。ML は会員同士の情報交流を目指すも、事務局からの配信を年間で 15 回程度行うにとどまった。 ●こまち通信 40 号：新理事挨拶、総会報告、ユースクエア事業報告等 41 号：秋まつり報告、ユースクエア事業報告等 42 号：ユースクエア総括、STEP 事業報告、退職職員挨拶等 ●Facebook 等 SNS では、日常の事業案内や結果報告を発信
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・こまち通信の発行が、年間で 3 回の発行となっている。これまで不定期発行としてきたが、時期を設定した定期発行に戻すことも、制作役割分担を含め引き続き検討が必要。 ・会員 ML の定期配信など、会員相互の交流の場づくりには、引き続き工夫が必要。

[3]子ども・子育て・まちづくりに関わる人々のネットワークづくり、コーディネート事業

事業名	ワンストップひろば「小さい子どものセンスオブワンダー」
	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業 (通年) ・キリン・地域のちから応援事業 (2023 年 4 月～)
事業目的	乳幼児期の子育ての不安の解消、仲間づくりなどを手伝い、子育て情報を伝える。また保護者同士の仲間作りをサポートする。
実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ●自主事業 期間：2022 年 5 月 1 日～23 年 4 月 30 日 ・自由あそび、親子ヨガ ●キリン・地域のちから応援事業 期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日 ・親子ヨガ、親子ピクス、リトミック体験、ママカフェ (お茶会)
講師、スタッフ	講師：寺本久美子 (ヨガ講師、当法人会員)、 スタッフ：戸谷玲子 (会員) 他ボランティア 25 名 /水野真由美 (理事) 公式 LINE 配信：牛田真登 (学生会員)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・通年で全 93 回開催。新規登録親子 36 組を含むのべ 304 組の親子が参加した。 ・感染対策を講じながら、1 日 5 組の予約制にて開催。 ・2023 年 4 月より、「キリン・地域のちから応援事業」がはじまっている。通年で行っている親子ヨガに加えて、コロナ禍で開催を見合わせていたリトミックなどのミニ

	<p>講座を徐々に再開していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろば専用の公式 LINE を活用。参加予約受け付けや利用者及びボランティアスタッフからの連絡手段などのコミュニケーションツールとして定着してきている。 ・コロナ禍で連絡が途絶えていた大和学区主任児童委員さんとの連携を再開し、生後2か月～4カ月の赤ちゃん訪問時にひろばをご紹介いただき、特に転勤でこの地にはじめて引っ越して来られた0歳児を持つ利用者への周知にご協力いただいている。 ・3月25日（土）に近隣住民にむけて「ひろば de フリマ」を開催。ひろば利用者や近隣からの物資の提供をいただき、当日は地域子どもたちから高齢者まで多世代の方に利用いただいた。フリマでの収益は、ひろば事業に充当した。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続いて、コロナ禍にあっても妊産婦を含む乳幼児親子が、安心して通所できる場づくりを常に意識しながらのひろば運営。 ・年明け以降、利用者の再就職や転勤などで、利用者数の減少が著しく見られる。コロナ感染が落ち着いてきて、乳幼児親子の行き先が増えてきたことも考えられる。 ・ボランティア募集サイト Activo を活用し、ひろばボランティアを通年で募集した。大学生・社会人・高校生らの希望者が集まり、約25名のボランティアに登録していただいているが、3月末で、卒業や就職などの理由で、多くの若者がひろばボランティアを卒業。継続して関われる新しいボランティアの獲得が急務。

事業名	ほうかご子まち事業
	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業（2022年11月～2023年3月） ・アイシングループNPO活動応援基金事業（2023年4月～）
事業目的	学齢期（主に大和学区）の子どもたちの、下校後の居場所事業。既存の学童やトワイライトスクールとは違う第3の居場所づくり、仲間づくりなどをサポート。
実施期間	<p>●自主事業 期間：2022年11月～2023年3月まで、試験的に月に1回第4金曜日に開催。</p> <p>●アイシングループNPO活動応援基金事業 期間：2023年4月1日～2023年10月31日 毎週金曜日に開催。 主に会場備品の購入費用（折り畳み机、ひろば前ベンチ、ボードゲーム、タブレット等） 2～4名程度/日が利用。</p>
講師	講師：寺本久美子（ヨガ講師、当法人会員）、

スタッフ	スタッフ：秋好眞澄（ひろばスタッフ）他ボランティア2名 / 水野真由美（理事長）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年11月より、試験的に月1回開催。事前登録していただき、保護者とのコミュニケーションをとりながらの試運転。利用児童のニーズを探りながら、子どもたちにとっての居心地の良い居場所づくりを模索した。 ・2022年10月に本事業のPRも兼ねた「子ども&まちネットわくわく秋まつり～ひろばde縁日ごっこ」を開催。近隣の市邨高校ボランティア部の学生にも企画づくりから関わってもらい、5つのブースをひろば内とひろば前歩道に設置して開催。近隣の親子や子どもたち約100近くが参加。 ・2023年4月より、アイシン助成を活用して毎週金曜日に開催。 ・学校の宿題、折り紙やボードゲームなどの自由あそび。何もしなくても良い空間づくりを意識して開催した。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年夏以降、本事業を計画。以前ひろば利用者の近隣の母親らにも意見をいただきながら、試験期間を経て実施が実現。アイシングループの助成もいただけた。まだ利用児童が通常1,2組であるため、ボランティア1名でほぼ回しているが、今後の広報と運営方法にも課題が残る。

事業名	子育てネットワーク千種 ミニ子育て広場
主催	子育てネットワークちくさ（事務局：千種区民生子ども課）
事業目的	区内の子育て支援関係機関等がネットワークを構築し子育て家庭への情報提供・相談の場、交流の場を作って子育てに喜びが感じられる地域社会への転換を目指す（規約より抜粋）
実施期間	7月15日（新型コロナ感染拡大のため中止） （参加）9月15日、10月11日、11月15日、12月13日
事業内容	会場内にブース出展し、手作りおもちゃなどを紹介。ひろばPRも行う。
担当	水野真由美（理事）、戸谷令子（会員）、秋好眞澄（ひろばスタッフ）

その他の団体との連携、ネットワークづくり

愛知県青少年育成県民会議

子育てひろば全国連絡協議会

NPO 法人子ども健康フォーラム

NPO おたがいさま会議

広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

[4] [1]から[3]に関する研修・養成等企画運営事業

事業名	保護者・支援者向け集中研修 「変わっていく思春期の「からだ」と「こころ」を大好きになる 2022～障がいのある子ども・若者の 性と生の理解と支援～
自主事業	
事業目的	「障がいのある子ども・若者が、地域で安心して暮らすために社会からの孤立を防止し、自己肯定感をあげる」ことを目的に、①自身のからだところを大切にす る気持ちを育み②他者とのコミュニケーション力を身につけ、理解者の拡大とスキル アップを図る。
実施期間	2023年1月～2022年2月
担当	統括：田中弘美（理事）、 事務局：水野真由美（理事） IT補助：牛田真登（学生会員） ・ 子ども&まちネットを中心に、障がい児者の支援に関わるメンバーで構成される STEPプロジェクト委員会*によって、事業立案から運営までを行った。 ・ プロジェクト委員会：木全和己氏（日本福祉大学）、伊藤修毅氏（同）、伊藤加奈 子氏（婦人科医）、鉄井史人氏（特別支援学級教諭）、鈴木由紀子氏（障がい者福 祉事業所職員）、秋好真澄氏（障がいのある子どもの父母のネットワーク愛知）、 戸谷令子氏（同）、河村あゆみ氏（発達相談員）。
事業内容	2021年に出版した『障がいのある子ども・若者の性と生「からだ」と「こころ」 を大好きになろう』をテキストとして活用し、 保護者・支援者向け研修 をオンライ ンで開催した。 ◆保護者・支援者向け基礎研修（全てオンライン） ＜基礎研修①＞「障害のある子ども・若者のセクシュアリティ教育」 ・ 性教育の現状と課題 ・ 教育現場からの実践報告 開催日時：2023年1月22日（日）10：00～12：30 会場：オンライン形式 講師：伊藤修毅（日本福祉大学子ども発達学部准教授） 事例紹介：市内特別支援校教員（T氏、I氏） 司会進行：水野真由美（理事） 参加者数：67名 参加者層：障がい児者支援事業所職員、教育関係者、保健センター職員 保護者等 ＜基礎研修②＞「思春期の心と体の変化」 ・ 医療現場から見る「性」の現状と課題 開催日時：2022年1月29日（日）10：00～12：00

	<p>会場：オンライン形式 講師：伊藤加奈子（ココカラウイメンズクリニック院長・婦人科医） 司会進行：田中弘美（当法人副理事長） 参加者数：59名 参加者層：障がい児者支援事業所職員、教育関係者、保健センター職員、保護者等</p> <p><基礎研修③>「社会福祉の現場の性の支援の取り組みと課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人たちに合わせた支援の手法 ・事業所からの実践報告 <p>開催日時：2022年2月19日（日）10：00～12：30 会場：オンライン形式 講師：木全和巳（日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 教授） 事例紹介「相談支援の現場から」 報告 寺部佳代子 司会進行：田中弘美（当法人副理事長） 参加者数：68名 参加者層：障がい児者支援事業所職員、教育関係者、保健センター職員、保護者等</p> <p>◆企画会議（プロジェクト委員会） 研修ほか、本事業遂行のための企画会議を、オンラインで開催した。全体会を1回、分会を1回の計2回の企画会議を開催した。</p> <p>○第1回プロジェクト委員会（全体会） オンライン 11月16日（水）19:30～20:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度事業概要について ・研修日程決め、研修内容検討、事例紹介についてなど <p>○第2回プロジェクト委員会（分会） オンライン 2023年1月29日（日）21：00～21：30 （木全和巳、寺部佳代子、田中弘美、水野真由美）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修③の進め方について ・タイムスケジュール確認、資料確認
<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度もオンラインにて開催。オンラインにすることで全国各地から定員を上回る参加申込みがあった。 ・、事後アンケートの結果では、内容について「大変良かった」「良かった」を合わせて96%から「良かった」との回答が得られた。理解度に関しては、「思春期における”体とこころ“についての理解が深まったか？」の問いに、94%が「とても深まった」「深まった」と回答した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、自主開催のため個別相談や出張相談などのフォローができなかった。 ・昨年までの毎回定員オーバーという勢いはなくなった。社会的にも対面研修が再開されつつあることも、影響していると思われる。 ・オンライン研修も3年目となり、一定層リピーター受講されている。昨年同様の内容と思われる方からの参加離れとも考えられる。
--	---

事業名	その他 STEP 事業
自主事業	
事業目的	「障がいのある子ども・若者が、地域で安心して暮らすために社会からの孤立を防止し、自己肯定感をあげる」ことを目的に、障がいのある子ども・若者の思春期支援の課題を、支援者が理解し、スキルアップを図り、支援者同士が繋がり、一人ひとりに寄り添った支援ができるようになることを目指す。
実施期間	通年（不定期）
担当	田中弘美（講師）、水野真由美(事務局)
事業内容	<p>◆講師派遣・コーディネート</p> <p>○NPO 法人障がい者みらい創造センター 2022年7月6日（水） 放課後等デイサービスの保護者向け研修講師 「中高生の性の学習について」 講師：田中弘美</p> <p>○学校法人大原学園 名古屋市天白特別支援学校 2022年12月13日（火） 保護者向け講演会 「障がいのある子の性について考えよう」 講師：田中弘美</p> <p>○学校法人大原学園 名古屋市南特別支援学校 2023年3月23日（火） 教員向け学習会 「セクシャリティ教育」 講師：田中弘美</p>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・STEP 事業を継続して開催してきたことで、徐々に対面での講師派遣依頼が増えてきている。 ・講師への負担と事務局負担に見合った予算計上をされている事業所はまだ少なく、運営に課題が残る。一方で同様のニーズが増えることが予想され、対応可能な人材育成も課題。 ・子まち所有の教材の貸し出しについての問い合わせも複数件。貸し出し用に複製する手立てを模索中。

[その他] コロナ関連ほか

- ・ NPO おたがいさま会議 * (隔週火曜日～不定期開催) オンライン出席
 - * 事務局: レスキューストックヤード/日本福祉協議機構
- ・ 「ウクライナ避難者支援のための情報共有会議」
 - * 主催: あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク
 - * 事務局: レスキューストックヤード

3.会議の開催に関する事項

(1) 総会

1. 開催日および場所

日時：2022年（令和4年）6月26日（日）11時00分～12時00分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議室システム zoom

2. 議題

第1号議案：2021年度事業報告の承認について

第2号議案：2021年度事業決算の承認について

第3号議案：2022年度事業計画の議決について

第4号議案：2022年度予算計画の議決について

第5号議案：役員の選任について

3. 報告事項

なし

(2) 理事会

第1回 理事会

1. 開催日および場所

日時：2022年5月28日（土）20時00分～21時45分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 議題

第1号議案 2021年度事業報告について

第2号議案 2021年度決算報告について

第3号議案 2022年度計画および予算について

第4号議案 役員の推薦について

その他確認事項 総会の役割分担について

第1回 臨時理事会

1. 開催日および場所

日時：2022年6月26日（日）20時00分～20時40分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 議題

第1号議案：役員の退任について

第2回 理事会

1. 開催日および場所

日時：2022年6月26日（日）10時00分～10時40分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 議題

第1号議案：総会資料の確認

第2号議案：役員の退任について

第3回 理事会

1. 開催日および場所

日時：2022年7月1日（金）20時00分～20時20分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 議題

第1号議案：代表理事の選任

第4回 理事会

1. 開催日および場所

日時：2022年10月22日（土）19時00分～21時00分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 審議事項

- ・ ユースクエア事業次期指定管理者選考結果を受け、今後の法人運営方針等について①

第5回 理事会

1. 開催日および場所

日時：2022年12月4日（日）16時00分～18時00分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 審議事項

- ・ ユースクエア事業次期指定管理者選考結果を受け、今後の法人方針等について②

第6回 理事会

1. 開催日および場所

日時：2023年1月8日（日）16時00分～18時00分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 審議事項

- ・ ユースクエア事業次期指定管理者選考結果を受け、今後の法人方針等について③
- ・ 子まち事業の振り返りワーク

第7回 理事会

1. 開催日および場所

日時：2023年2月23日（木祝）14時00分～17時00分

場所：子ども&まちネットひろばスペース及びオンライン会議システム zoom

2. 審議事項

- ・ 前回の振り返り、その後の助成金申請とう進捗状況
- ・ 守山事業提案について